

<特集 4 >

土橋敬一郎さんを偲んで

原子力機構 森 貴正

当部会の 1996 年度部会長、土橋敬一郎さんは、2011 年 3 月 20 日にお亡くなりになりました。享年 73 歳でした。東日本大震災の直後ということもあり、ご家族から原子力機構へ連絡があったのが 3 月 28 日で、ご葬儀にも参列できませんでした。ここに謹んで哀悼の意を表します。

土橋さんは、1962 年に京都大学大学院工学研究科電気工学専攻を修了され、日本原子力研究所 (以下「原研」、現原子力機構) に入所されました。入所当時、どのような研究をされておられたのかについては、若輩の私には知るよしもないところですが、学生時代には原子核工学専攻で炉物理の講義をされていた西原宏先生の研究室を訪れていたとお聞きしたことがありますので、当初より炉物理に興味を持たれていたことが想像されます。実際、1960 年代後半から、種々の幾何形状体系を対象とした衝突確率法に基づく一連の CLUP シリーズコードを発表され、1979 年にはその集大成として LAMP-B コードを発表されています。そして、この LAMP-B コードを中核として、研究炉の設計・運転管理を目的とし、燃料ピンセル体系から炉心体系までの一連の計算を容易に実行できる SRAC コードを 1983 年に発表されました。SRAC コードは原研・原子力機構の開発したコードの中で最も広く大学、産業界等で使用されているコードの一つであり、その業績により、1986 年度日本原子力学会賞技術賞「熱中性子炉体系標準核設計 SRAC コード」を、共同開発者の石黒幸雄さんとともに受賞されています。SRAC コードはその後も改良が進められ、現在でも多くの方に使用されています。土橋さんと面識のない若い部会員の方でも、使用された経験あるいはお聞きになられたことがあるのではないかと思います。

土橋さんはテニスがお好きでした。学生時代にバレーボール部に所属されていたとのことで、両手を使うバレーと同様に、左右どちらに来たボールでもラケットを持ち替えて常にフォアハンドで返球するという印象的なテニスでした。また、スコッチがお好きで、外国に出張される時には、成田空港でいつも 1 本買って、それを毎夜楽しまれていたことが思い出されます。

土橋さんに最後にお会いしたのは、2010 年 5 月に熊取で開催された代谷先生の退官記念行事の時でした。その時はお元気そうで、原研 OB 会のメンバーと山歩きなどをされているとのことで、1997 年に原研を退職された後は悠々自適の生活を楽しまれておられるようでした。

最後に、土橋さんのお人柄やご功績を偲びつつ、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

(2012 年 3 月 30 日 記)